

私学の魂

広尾学園
中学校・高等学校

大きく変化する社会情勢の中で、
常に時代の一步先を見据えた教育を実践。
常識に捉われない
フレキシブルなプログラムで、
実社会に必要な「本物」の能力を育む、
今話題の人気進学校。

東京メトロ広尾駅から徒歩2分という都心にありながら、近くには緑豊かな自然と景観で知られる有栖川記念公園、周囲には閑静な住宅街と各国大使館が建ち並ぶなど、理想的な教育環境を誇る広尾学園中学校・高等学校。

平成19年の校名変更・共学化以来、ICT教育やインターナショナルクラスの導入など、数多の斬新な教育に取り組み、中学受験業界のみならず、他業界からも多くの話題を呼んでいる。

今年の3月に卒業した改革第2期生が昨年を大きく上回る合格実績をあげたことで、来春も多くの受験生の支持を集めることは間違いないだろう。

教育理念に「自律と共生」を掲げ、常に10年、20年先の時代背景を想定しながら、グローバル時代の新しい教育に挑み続ける同校の躍進の原動力となっているものとは？副学園長の池田富一先生と教務開発部統括部長の金子暁先生にお話を伺いながら、教育関係者からも注目を集める同校の教育プログラムについてお届けする。



副学園長
池田富一先生



教務開発部統括部長
金子暁先生

DATA
1

広尾学園中学校・高等学校

沿革	1918年 順心女学校設立（校長・下田歌子） 1951年 学校法人順心女子学園成立 2007年 広尾学園中学校・高等学校に改称し、共学化 2010年 中学のインターナショナルクラスに新たにスタンダードグループを設置 2011年 高校に医進・サイエンスコースを設置
校長	田邊 裕
所在地	東京都港区南麻布 5-1-14 TEL：03（3444）7272 http://www.hiroogakuen.ed.jp
交通	東京メトロ日比谷線「広尾」駅下車3番出口すぐ

わずか数年で大学進学実績・入学時偏差値が急上昇。生徒とともに伸び続ける「未来志向型」の学園創り。

ここ数年の入学偏差値の急上昇と大学合格実績で、すでに難関進学校としての地位を確立した広尾学園中学校・高等学校。今春の大学合格実績では国公立大の20名をはじめ、早慶上ICU理大に77名（昨年32名）、GMARCHに129名と昨年を凌ぐ難関大合格者を輩出している。この合格者数は卒業生たちの入学時偏差値から勘案すると、驚くべき学力伸長度と言えるだろう。同校の教育レベルは、わずか数年の間になぜここまでの急成長を遂げたのだろうか。それには「教職員たちの徹底的な意識改革と授業のスキルアップ」があったと語るのは教務開発部統括部長の金子暁先生。「改革以前（順心女子時代）は女子大に指定校推薦で入学するのが既定路線で、一般入試で勝負するのは一部の生徒に限られていました。当然、一般入試に対する教職員の経験値が不足していたのも事実です。そこで改革を機に教職員たちの徹底的な意識改革に取り組みました。生徒たちの学力アップを図るには『授業の質の向上』、ということが全教職員の共通認識としてありましたので、研修では自ら難関大学の入試問題を解き、ロールプレイング形式で模擬授業を繰り返しました。教職員が生徒の目線に立って、モチベーションの高まる授業を目指したのが非常に大きかったと思います」（金子先生）

実際、入試問題を解くことについて教職員から反対の声はあがらなかったと金子先生は言う。また副学園長の池田富一先生は「本校では長期休暇中に教職員が大

学入試の問題を解き、その点数を公開しています。それは生徒たちに教えるにはまず自分たちが完璧にマスターしなければならないという自覚があるからです。自分たちがなぜ教師になったのか。なぜこの仕事をしているのか。それは『輝かしい未来ある生徒を育てるため』だという気持ちを忘れずに、常に全力で行動しているのが広尾学園の教職員だと思います」（池田先生）

「生徒が今何を望んでいるのか」「これからの社会に何が必要なのか」。生徒の視点から物事を考え、それを恥じることなく実行に移す。この行動力と熱意が生徒たちに伝わり、今日の広尾学園躍進の原動力となっているようだ。生徒と教員が共に手を取り合い成長する学園。同校躍進の陰には教育内容やプログラムを論じる以前に「教員マインド」の革新と向上があると言えそうだ。

インターナショナルコースの設置により本科クラスのモチベーションも倍増。国際化時代に通用する「本物」の英語力と広い視野を培う。

同校の前身である順心女子学園が海外帰国子女教育研究校として指定されたのが昭和48年。以来、平成18年のスーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクールへの指定、平成19年のインターナショナルクラスの開設など、広尾学園を語るうえで、英語教育と帰国生受け入れは切り離せないものとなっている。

インターナショナルクラスは高度な英語力を有する帰国生を中心としたアドバンスグループ（AG）と、英語力がゼロベースでも、将来的に高い英語力を身に



ICT教育に力を入れる広尾学園では、先端のテクノロジーを肌で感じるため、プログラミング講座も実施されている。写真はiPhoneアプリの開発講座の様子。



インターナショナルコースの専任外国人教師は15人と、他校と比べても圧倒的に多い。校内に絶えずネイティブ教員がいることは本科生にも大きな刺激となっている。

つけ、世界を舞台に活躍したいと望む生徒たちのため開設されたスタンダードグループ (SG) の 2 クラスから構成されている。

AG では基本的な授業をすべて英語で実施。既存の英語力に磨きをかけ、国内外の難関大学合格を目指す。一方の SG は平成 22 年に新設されたクラスで、外国人教員を通じて欧米の文化や国際人の感覚を身につけ、国際社会で堂々と渡り合える英語力を養成する。「大学受験も大切ですが、本校では社会に出てから通用する『本物』の力を育成することを基本スタンスにすべての授業を展開しています。特に英語教育では受験英語に偏ることなく、グローバル社会で通用する実践英語の習得に主眼を置いています」と語るのは副学園長の池田富一先生。取材当日、中 2 の SG 生による英語でのプレゼン風景 (動画) を拝見したが、「英語学習 1 年足らずの生徒がここまで流暢に英語を話せるものなのか」とそのスピーチ力には驚かされた。「SG の生徒が短期間で急激に英語力を伸ばしているのは、本校独自の英語カリキュラムもありますが、最大の要因は同級生に『AG』、つまり帰国子女で英語が堪能な生徒が複数いることが大きいようです。先生やネイティブが英語を話せるのは当然ととらえがちですが、同年代の生徒が英語を話す姿は、自分に置き換えてイメージしやすいのでしょう。『同じ年代の仲間がこれだけ流暢に英語を話すのだから、きっと自分にもできるだろう』と…。」(池田先生)

専任ネイティブ教員が 15 人と非常に多いのも同校の特徴である。「日本人教員同様、ネイティブ教員が校内各所に常駐していますので、本校の生徒たちは『外国人アレルギー』とは無縁です。それぞれが得意な専門分野を持ち、なかには担任や部活の顧問をしている教員もいます。本科生たちも日常的にネイティブや帰国生と接する機会が多く、SG の生徒は AG の生徒が、



広尾学園では多くの生徒がクラブ活動に積極的に参加し学業との両立を図っている。写真は都大会で金賞を受賞したブラスバンド部 (左) と全国大会に初出場を果たした中学ディベート部

トピック 広尾学園の ICT 教育

近年、多くの学校が導入を進める ICT (情報通信技術) 教育だが、広尾学園はまさにその先駆けと言える存在である。同校では 7 年前から



国際コースで MacBook を使った授業を展開。さらに 2 年前からは全生徒が iPad を所有し、学園生活の様々な場面で活用している。導入の経緯について「明治時代から続く、受身型の授業スタイルを能動的に変えたかった」と話すのは同校における ICT 教育の中心人物でもある金子暁先生。けやき祭 (文化祭) では iPad やノートパソコンの汎用性を活かしてプレゼンテーションを実施。また連絡事項や情報の共有もスムーズになり「自律心」の向上にも役立っているようだ。生徒たちの情報ツールに対する順応力は非常に早く、新しい活用術を生徒が先生に教える



場面が急増中とのこと。このように導入以降は生徒と教員のコミュニケーションの場が広がり、双方の距離も大幅に縮まってきているようだ。

本科生は国際コースクラスの生徒がいることが大きな刺激となり、互いのモチベーションを高めているようです」(池田先生)

改革 7 年目にして「英語はできて当たり前」という校風が構築されているのは、中 1 修了時における英検取得率 (98%が受験・うち 74%が英検 3 級以上を取得) を見ても明らかである。高度な英語教育と生徒の希望に則したコース設定が、同校の進学実績を支える核となっているのは間違いないであろう。

理系分野の第一線で活躍するスペシャリストを養成。広尾学園の医進・サイエンスコース。

英語教育同様、「本物」の理系教育にも力を入れる広尾学園。平成 23 年に設置された「医進・サイエンスコース」(高 1 から) では生徒自ら研究・開発をすることを積極的に推進することで「考える力」を育成。さらに最新の先端技術に触れることで、医師や科

学者、エンジニアなどのスペシャリストとしての素養を育み、未知なる問題に取り組む術を学ぶ。本コース設立の経緯について副学園長の池田先生は「本校は日赤医療センター近くという地理的な理由を含め、医療関係に従事する保護者が多い学校です。そのため保護者からのニーズや理系志向が高まる時代背景もありますが、一番大きかったのは『本物の理系教育』をしたいと願う教員たちの熱意です。最初はゼロベースからのスタートでしたが、コース設立と同時に3つのサイエンスラボ（生物、物理、化学）も完成し、実験機材も中等教育用のものではなく、研究室レベルのものを揃えました。最近ではこの熱意が世間に伝わり、企業や大学との連携を強化すると同時に、機材や研究材料を無償で提供していただく機会が増えたことで、本コースそのものが年々進化しています」（池田先生）。また医進・サイエンスコース（以降・医サイ）のメインとなる研究活動について金子先生は「生徒たちは放課後や土曜日を使い、自分の興味・関心ある研究や開発に没頭しています。高1では自分が取り組む研究が、世界でどこまで進んでいるのかを調べることから始めます。すでに行われた研究では意味がないからです。時には新規性を確認したにも関わらず、他の研究者に先を越されることもあります。ある女子生徒は『ブラナリア』に関する寿命の仮説を立てて研究をしていましたが、イギリスの研究チームがこの生徒と同じ仮説で証明し、先に論文を発表してしまいました。彼女は泣いて悔しがりましたが、それほど医サイの生徒たちは高い志と誇りを持って、自らの研究に取り組んでい

るのです」（金子先生）。「医療や研究現場を訪れ、その分野の第一線で活躍する人と接する機会を数多くけているのも医サイの特徴です。理系大学に合格することだけを目標とするのではなく、実際の現場で『本物』を体感し、社会に貢献できる医師や科学者を目指すための『マインド』を育成するのも本コースの目標のひとつになっています」（池田先生）

中等教育では類を見ない高度な設備や実験機器。そして生徒たちの主体的な学びを尊重しながら、授業と研究活動を全面的にサポートする指導力豊かな教師陣。妥協なき「本物」の追求が高邁な「志」を育み、同校出身のサイエンティストが世界規模で活躍するのも決して絵空事ではないだろう。来春には医進・サイエンスコースの第一期生が卒業する。「本物」を目指す生徒たちにとって、大学受験はひとつの通過点だが、その結果を期待せずにはいられない。



化学・生物・物理、3つのサイエンスラボにはDNA操作や細胞培養を行える設備が整っており、最先端の研究が体験できる。

DATA
2

2013年大学合格状況・抜粋

国公立大学	私立大学	海外大学
北海道大学 1	早稲田大学 15	University of California, Berkeley 1
旭川医科大学 1	慶應大学 18	University of California, Los Angeles 1
東北大学 1	上智大学 29	University of California, Santa Barbara 1
東京工業大学 1	東京理科大学 12	New York University 1
東京外国語大学 1	国際基督教大学 3	University of Toronto 2
千葉大学 2	明治大学 35	University of British Columbia 2
埼玉大学 3	青山学院大学 16	University of Victoria 1
国際教養大学 2	立教大学 17	Simon Fraser University 1
首都大学東京 1	中央大学 24	
神戸市外国語大学 2	法政大学 25	
その他 5	学習院大学 12	
計 20		計 10